俺たちの偉大なとりで

宮浦　平田光男

七月二十七日
俺達のとりで
闘争本部の大掃除
断水もなんのその
地域全員の情熱と力が
結集する

かって闘った
千二百名の首切り反対闘争
全国の仲間達が
多くのカンパを持って
集まって来た
母ちゃん達は
せっせと
御飯をたき
おにぎりを作って
ホッパーへ送り込んだ
その偉大なとりで
俺たちの闘争本部

汗と油が
真赤な労仂者の血潮が
みゃく打つとりで

吸血鬼三井独占資本
利潤拡大に目くらむあまり
保安サボ
人命軽視
労仂強化
そしてついに
三池三川鉱の炭塵大爆発

四百五十八名の仲間が
殺された
さらに八百余名のCO中毒
大量後遺症患者を作り出す

今もなお
苦しんでいる患者
目の前に見すえながら
会社幹部は
責任を取る所か

抹殺するというのだ

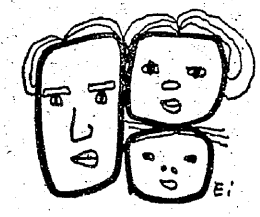
俺達は
CO患者とその家族を
中心に守りながら
全国の仲間の支えの中で
闘った
母ちゃんたちは
八百名の仲間が息絶え
自分たちの夫が息子が
廃人となった爆発地点
うらみは深い
三川鉱の坑底に座り込み
同じ母ちゃんたちはまた
東京の
国会議事堂で座りこみ
労仂省前でハンストにはいり

命をかけて闘った

CO特別立法を
会社に守らせるため
俺達労仂者が
安心して仂ける
安全坑場を作るまで
どうして
闘争本部の灯が
消されるものか

吸血鬼三井独占資本の手で
殺された仲間の姓名が
書きこまれている闘争本部
闘いの歴史が刻みこまれている
俺たちの偉大なとりで
どうしてその灯が

消されてなるものか



＝詩＝ とうもろこし

三川支部　小柳重義

とうもろこしを　やく匂い
プーンとお腹に　しみて来る
醤油をつけて　くるくると
街にかおりが　流れゆく

かぶりついたら　たまらない
障子にうつる　その影は
ハモニカ吹いてる　ような影
庭に涼しい　風が吹く

木の葉ざわざわ　いい月夜
かめばしみじみ　なつかしい
故郷の畠を　想い出す
とうもろこしは　秋の味

S42・9・10

「死ね」ということか

―宇部カーボンの闘争に声援を―

CO家族の会　松尾恵虹

組合員、主婦会員のみなさん、あの思い出すことさえいやな三川鉱大爆発から三年八カ月、みなさんの吸いで支援を基礎に、全国の仲間のみなさんの後押しで闘った結果、CO特別措置法の成立をみたことを心よりお礼申しあげますとともに、さらに今後のご支援をお願いいたしたいと思います。

私はこのようなCO闘争を通じ行動した五月に、大阪へ逆オルグとしてまいりました折に、炭鉱ではすでに転業病として労災法の適用を闘いとっている〝じん肺法〟の適用をうけるために闘っている化学同盟傘下の宇山カーボン支部を知ることができました。

宇山カーボン支部の作業内容は早くいえば乾電池用の炭素棒を作っているのです。この炭素棒（黒鉛、コークス、タール、ピッチなどを混合）は、千五十度の高熱で処理する転場ですが、シャツを四枚着こんでいても身体が真っ黒になるということです。

そのような転場で、昨年の春闘の転場討議のなかで明るみに出されたことは、仂く人々の三人に一人が結核ということで処理されていた〝じん肺転場〟であるということでした。

名和さんという人は、すでにじん肺で入院中で、その後主人にかわって同じ宇山カーボンで仂いて生計をたてておられる奥さんもまた〝じん肺〟と診断されたほどです。

現在入院中の人に石田君子さんという人がありますが、今年の二月十日、開胸手術（右肺摘出）されたとき、主治医は「この人の肺は、真っ黒でめずらしい肺だ。アルコール漬けにしよう」といわれたそうですが、政治的な圧力で中止になったということでした。

このようななかで宇山のみなさんは、じん肺法に基づく予防措置や特殊検診を要求して闘いにたちあがったのですが、会社は、私たちが大阪滞在中の五月二十三日、経営不振を理由として、「工場閉鎖」という、まったく話にならないことをやったのです。

宇山カーボン支部の仲間は三十名たらずですが、「偽装閉鎖をやめ、生産を早急に再開せよ」のスローガンをかかげながら〝じん肺闘争〟をつづけ「都会のなかの炭鉱、第二の三池の闘いだ」と頑張っておられるのです。私たちは転業病、労仂災害防止をめざして闘ってきましたが、この際、みなさんに知っていただき、宇山カーボンの仲間のみなさんを力づけていただけていただければ と思います。

宇山カーボンの患者の方の一人＝樋口カネ子さん（五十才）は叫んでいます。

「私の会社は黒鉛を使ってカーボンを作るので、身体全体がホコリで真っ黒です。勧めはじめてから十八年の間、会社は〝黒鉛は薬になっても毒にはならない〟とだましつづけてきました。粉塵指定工場でありながら、法律できめられた〝特殊検診〟さえ一度もやりませんでした。去年の五月、組合からやかましくいわれて初めて検診をしたのです。その結果、私はじん肺にかかっており、しかも管理区分（三）という重症でした。（四）になれば入院しなければなりません。それまで、もしやと思っていましたが、ハッキリいわれると恐しくなりました。家族にもどういってよいかわからず、心配で三、四日迷いつづけました。一生治らない病気だとわかるど、家族は私に〝会社をやめろ〟といいました。しかし、やめたところで治る見込みはないのです。本年五月の検診でも、また管理区分（二）や（三）の仲間がでました。会社は、じん肺にかかったのは私たちのせいだとして、どんなに頼んでも〝集じん設備〟をしてくれませんし、責任をとろうともしませんでした。そればかりか〝文句をいう組合が邪魔だ〟と、会社はつぶそうとしています。私たちに〝死ね〟というのでしょうか。こんなひどい会社を、私は許すことができません」。

宇部カーボンにかぎらず、多くの仂く仲間のみなさんがこのように「生命と健康」を守るために闘っていることを知っていただき、今後のCO闘争に決意を固める意味もこめて、なにはともあれ、宇山カーボンの仲間たちの闘いに声援をおくってくださるようお願いいたします。

※あてさき
大阪府茨木市宇野辺十五の一
総評化学同盟大阪合同支部
宇部カーボン分会
分会長　宮田数己
書記長　石田和彦

労働者が治療を要求すれば、
工場を閉鎖して知らぬふり…
ここにもCO問題がある。

三池の火をこの地に燃やすつもりで

内田和夫

これは先ほど、選ばれて東ドイツの大学で勉強するため旅立っていった内田和夫君（お父さんは港務支部）からの便りです。

東ドイツから便り

拝啓、こちら東独では早くも秋の感じを受けますが、大牟田の方はまだまだ残暑厳しいことでしょう。毎日のたたかい本当にご苦労様です。

無事ライプチヒに到着しました。後は独語の勉強開始を待つだけです。寮も建物自体は古い感じを受けますが、室内は整備され、食事も楽に食べられます。

こちらの留学生のすべての方は総評派遣の方たちばかりで、親切にしてもらっています。

こちら東独の地でも、やはり「みいけ」の名は知られており、自分の勉強がいかに大切なものであるかを、感じさせられます。

社会主義国の感じは、モスクワでも東ベルリンでも、仂く者の町だという感じをうけました。

僕はまだまだ三池の皆様のお役にたつことはできませんが、いつも三池の方々と一緒だという認識にたって、少しでもこの東独の地に三池の火を燃やすつもりで、はげみたいと思います。そしていつの日かきっと、三池労組の頭上に栄光の輝くことを信じております。

夫婦言

満点の亭主

「ペースをくずさずに」

宮浦　早田美代子（30才）さん

早田美代子さん

奥さんは放り出し

結婚六年目、五才で幼稚園に通う康夫と二才の美穂の四人暮し。

あなたは、三十六才のよきパパです。奥さんの私は放り出されているといえば、あなたが組合運動で走りまわっているようですが、そうではなく、子ぼんのうのあなたに子どもたちが一にも二にも「パパ、パパ」といってまつわりつきあなたも子どもが寝つくまで本を読んでやったり歌をうたってやったりで、私は放りだされているわけです。

組合運動の方は、別に家で話をしたりはしませんが、「早田さんは組合運動が熱心なので、第一組合としてついていく奥さんを選んでやる」といって紹介してくださった仲人さんが第二組合に脱落するという皮肉もありましたが、私はいつまでも家を守りあなたについていくつもりです。

点数をつければ

「主人としてのあなたに点数をつければ？」ということですが、ズバリいって百点。その理由は、まず「まじめ」なこと。

たとえば地域分会の機関紙発行が任務（ご主人の正次さんは宮前地域分会の編集責任者）になっていますが、月に一回は二、三日かかって朝方まで原稿を書いたりします。つぎに「よく仂くこと」。私が「休んでくれ」とたのんでもなかなか仕事を休まない。最後にはケンカになるくらい。だから、結婚適令期の私の妹が「早田さんのような人をおムコさんに世話してくれんネ」といって私を困らせます。ほかの人は、停年すぎたら退転金で家を建てるのを楽しみにしていますが、「おれは山にともってスミ焼きでもしよう」というあなたの夢にばかりはついていけないと思っています。

身体だけは大切に

こんなロマン・チックなことをいうあなただから、みんなから万年青年だとひやかされます。私だけが年とらないように、私もせいぜいロマン・チックに生きたいのですが、満勤しても二万五千円ちかくという三井の低賃金ばかりがチョッとじゃまです。

とにかく、いまのようなペースでお互いに身体を大切にしていきましょう。

また高橋さんからカンパが

このほど北九州市の高橋紀昭さん（三池闘争のとき、九大学生としてオルグにきていた人）から馬渡地域分会に「地域活動の一部に……」と、五千円もの大金が届いた。高橋さんは去る一月にも同地域の子ども会に世界文学全集（四十七冊）を贈っており、同地域分会一同が高橋さんによせる感謝もひとしお。